

南海トラフ巨大地震等に係る被害想定見直し概要（令和8年2月）

- 各種データの更新や計算手法の見直し等を行った結果、想定される死者数やライフライン関係の被害はやや減少する予測となったが、依然として**甚大な被害が想定**されることに変わりはない。

被害の種類	当初想定 (H25.10)	前回想定 (R2.3)	今回の想定 (R8.2)	増減(前回→今回) の主な要因	<参考> 国想定 (R7.3)
人的被害	(早期避難率:20%)	(早期避難率:55.5%)	(早期避難率:59.3%)		(早期避難率:20%)
死者数	約35,000人	約15,000人	約11,000人 (早期避難率:20%→約21,000人 早期避難率:70%→約5,400人)	早期避難率の向上 津波避難施設の整備 人口減や分布の変化	(約39,000人)
負傷者数	約27,000人	約20,000人	約20,000人		(約32,000人)
建物被害(全壊・焼失棟数)	約89,000棟	約80,000棟	約82,000棟	建物棟数の増加	(約83,000棟)
避難者(最大)	約399,000人	約370,000人	約434,000人	予測手法(国)の変更	(約404,000人)
災害関連死者数			約1,700~3,500人	(今回初めて算出)	
ライフライン被害(地震発生直後)					
上水道(断水人口)	約1,058,000人	約1,034,000人	約954,000人	対策推進と給水人口減	(約950,000人)
電力(停電件数)	約541,000軒	約591,000軒	約574,000軒	対策推進と電灯軒数減	(約560,000軒)
通信(固定電話不通回線数)	約343,000回線	約311,000回線	約235,000回線	回線数減	(約230,000回線)

※今回想定と国想定との差の主な要因(人的被害)…早期避難率や津波避難場所等の設定の違い